

「庄内緑地スケートパークについて」愛知県名古屋市

■スケートパーク整備の経緯

平成29年に当時の名古屋市長へ「スケートボード練習場整備について」約6500人分の署名簿が「楽しいスケボー普及をめざす会」から手渡され、市が国の都市公園補助を活用し、庄内緑地にある老朽化したゲートボール場の一部区域を使用して整備した。整備費用は約1.4億円で、スケートボード、BMX、インラインスケートができる施設として平成31年4月共用開始。ただし、スケートパーク単体としての事業ではなく公園再整備の一環として整備が行われた。設計にあたっては「楽しいスケボー普及をめざす会」やスケートボード協会とのワークショップなども重ねた。中でも滑らかに滑るための舗装には特に力を入れた。

また庄内緑地スケートパークが整備された背景として、平成10年度に整備された若宮大通公園スケート広場(1100㎡)がとても人気があった一方で、もっと明るい雰囲気子どもも含めて練習できるスケボー場を求める声が高まっていたことがあげられる。現在では若宮大通公園スケート広場も面積を2倍に拡張することも含めて再整備することが検討されている。

■施設の概要

供用日：1月4日～12月28日

閉場日：上記の日付以外の原則毎週月曜日と毎月第3水曜日（休日の場合は第4水曜日）

供用時間：午前9時～日の入り相当時刻（視察時は17時閉場だった）

料金：無料。ただし初回に利用者登録が必要。

指定管理者：名古屋市みどりの協会・ミズノグループ

特長：国内最大級の面積(約4840㎡)を誇り、広大な初心者フラットエリア、中上級者の興味に応える大型で独創的なセクションエリア、日常の練習から大会の開催にも対応できるレイアウトを備えるなど、初心者から上級者まで幅広いスケーターのニーズに対応している。また、緑豊かな庄内緑地に調和した色彩デザインになっており、交通至便の立地(地下鉄駅至近かつ駐車場あり)も特長である。

指定管理料は庄内緑地全体で年間約1億7500万円。うち市負担分が約1億5000万円、有料駐車場収入などが約2500万円となっている。指定管理者の事業として体験レッスンや有名なスケーターを呼んでのイベントなどを開催している。指定期間は5年間である。スケートパークは騒音が問題になることが多いが、庄内緑地内にあるため近隣に人家などがなく問題にならなかった。若宮大通公園の方は街中にあるが、それまでのように路上でスケートボードをされるよりは一カ所に集めた方が良いということで地域の理解を得てきた。しかし近年は周辺の状況も変わってきていることから、再整備にあたっては防音対策なども盛り込むことが検討されている。

■利用状況

利用人数はカウントしていないが、登録人数は令和5年度末現在約17000人である。年齢層は10代～20代が多い。利用時間帯としては、夏場は夕方からの時間帯の利用が多いが冬場は午後の早い時間帯が多い。利用に際しては、初回登録の際に渡される登録番号が入ったリストバンドをしなければならず、巡回している係員がチェックしている。登録制としているのは規約の確認を取るためと、ケガがあった際に身元を確認するためであるが、若宮大通公園ではやっていない。

■規約と免責事項

初回利用時に同意を取る規約には施設内での飲酒・喫煙を禁じたり、ペットの連れ込みを禁じたりする項目の他、ヘルメットやガードを着用することなどの注意が記載されている。小学生以下の利用に際しては保護者の同伴が必須であり、中学生以下の登録には保護者の同意書及び保護者の本人確認が必要となる。また、免責事項として「事故・ケガ等については自己責任とする」「利用者間のトラブルには管理者が一切責任を負わない」ことなどが定められている。

■質疑

概要説明の後、現場視察を行った。現場視察中も含めた質疑として、「スケボーや用具の貸し出しはやっているのか」との質問があり、「常駐しているスタッフがいないのでやっていない。イベントの際は貸し出すこともある」との回答があった。次に「イベントや大会は何回やっているのか」との質問があり、「BMXと合わせて月1回ほどイベントをやっている。大会は指定管理者主催ではないが年間数回行われている」との回答があった。次に「トラブルやクレームにはどのようなものがあるか」との質問があり、「BMX以外の自転車を乗り入れているという通報があった。またオープン当初は閉場後にフェンスや鍵を破壊して侵入する事案が後を絶たなかったが現在は無い。ケガは小さなものは把握していないが骨折などは年間1～2件ある」との回答があった。次に「防犯カメラは設置しないのか」との質問があり、「現在のところ予定はない」との回答があった。

■本市に活かせること

開設までの経緯として市民からの要望の高まりがあったため、整備に際してはワークショップが行われるなど市民協働での事業作りが行われていた。本市は昨今の公共施設整備に際しては多くの場合このようなプロセスを踏んでこなかったことから今後の参考にすべきと感じた。庄内緑地スケートパーク整備時に特に力を入れたという場内の舗装については非常に滑らかで静音性にも優れており、本市のふれあいの森スカイ広場でもこういった舗装にするように提案したい。また、登録の仕組みはケガやトラブルへの対策として大変優れており、本市でも同様の手法を取り入れるべきである。